・東電の企業倫理、体質に根本原因がある
・業者に不手際があっても、それを受け入れる東電であってほしい。
・東電の広報はあてにならない、という声を町内住民から聞く。
・ルール違反への対応をどうするかはその時どきの企業判断か。社会ではルールを破った者は処罰されるが。
・下請け等への作業指示書が東電にあったのか。その内容はどんなものなのか。東電はきちんと指示したのか。

●申告できない原因

・不正や事故を正直に報告しにくい環境があるのではないか
・インセンティブ制度は既に廃止したが、その制度下では、逆に正直に報告して仕事を失うという懸念を下請け業者が持っていたのでは。

●定期点検短縮等の影響

・定期点検短縮は安全性への疑問を生むと同時に、地域の経済にも影響を与えている。
・安全面からも時間をかけるべき。
・電気という製品は、安全だけではなくコストも品質を計る指標の一つ。期間が短く、コストも安く、しかも安全が確保されることがベスト。企業であれば当たり前。

●国、自治体への不満

・保安院は事実把握から公表まで時間がかかり過ぎ
・保安院がこの問題にどう関与しているのかが見えない。保安院と保安検査官は何を検査していたのか。何のための配置か。不信感がある。
・県や市町村は国、東電の言うなり・追随だけだった。
・今後原発とどうつきあっていくか地域全体が問われている

●汚染物のサイト外持ち出しの疑い

・出入物品の管理がずさんであり、汚染物がサイト外へ持ち出された可能性もあるのでは。
・そこまでやると犯罪。この会はそこまで議論できない。
・ペンライトは私物というが、電池の代わりに別のものを仕込んで持ち込んだり持ち出したりできるのではないか。

●その他

・進出を見合わせる企業もあると聞き、風評も心配。市のイメージダウン。東電を誘致したことがよかったのかという疑問にまで立ち返る。
・次から次へと問題が発生し、やりきれない思い。
・原発に頼りすぎるのは電気の安定供給につながらないことを証明した。
・4、6号機は異物を未点検。なぜすぐ停めて見ないのか。
・皆が今後に不安を抱いている中、1